



平成30年産りんごの生産概況

1 気象の概要（黒石：りんご研究所）

黒石（りんご研究所）での積雪深は、平成29年12月までは平年を上回ったものの、年明けからは概ね平年並から平年を下回って推移した。今冬の最深積雪は2月25日の75cm（平年97cm）で平年よりやや少なかった。消雪日は3月に入ってからのもので平年より10日早い3月19日であった。

気温は、4月下旬が高く、6月中旬が低温、7月中下旬が猛暑、8月上中旬が低温、10月から11月中旬が高温と変動が大きかった。

降水量は、4月から雨が多く、5月18日の降水量が月の日別降水量としては観測史上最大となる72mmとなったほか、7月上中旬、8月中旬、9月上旬及び10月上旬は平年の約2倍以上など、4月から10月までの総降水量984mmは昭和10年、昭和50年に次いで観測史上第3位、平成元年以降では第1位に多い年であった。

日照時間は、6月11日の梅雨入り後から7月20日までの梅雨明けまでが平年比68%と少なく、7月下旬、9月中旬、10月中旬及び11月上中旬以外は平年より少なかった。

2 生育ステージ（発芽～開花）

3月の気温が平年より高く推移したため、黒石でのふじの発芽日は、平年より7日早い4月2日、その後の低温で生育の進みは停滞し、展葉日は4日早い4月15日であった。しかし、4月後半の高温により、開花日、満開日は平年よりも6日早く、それぞれ5月2日、5月7日、落花日は平年よりも5日早い5月12日であった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）のふじの発芽日は、平年より8日早い4月1日、展葉日は4日早い4月16日であった。開花日、満開日は平年よりも9日早く、それぞれ5月1日、5月6日、落花日は平年よりも5日早い5月15日であった。

3 開花・結実と着果状況

開花量は、全般的に各品種とも平年を上回った。結実状況は、開花期間中の低温や強風、マメコバチ数の不足等により、地域や園地によってはカラマツ（不受精花）が見られたが、各品種とも概ね標準着果量を確保できた。

摘果作業は、結実や果実の大きさにバラツキが目立ち、黒星病の被害果もみられたことから、果実の肥大状況や形状等の見極めに時間がかかり、例年より作業が遅れた園地

が多かった。7月中旬時点の着果率は県全体の平均で、つがる40.4%、ジョナゴールド35.0%、王林38.2%、ふじ33.8%で、いずれの品種とも成らせすぎの傾向にあった。

4 果実肥大（横径）

開花が5～6日ほど早まったことから、果実の初期生育は平年を大幅に上回った。黒石における6月1日時点の横径は、ふじが2.1cm（平年比140%）、つがるが2.4cm（141%）、ジョナゴールドが2.6cm（144%）で、各品種とも平年に比べて6～8mm大きかった。その後、6月中旬の低温や梅雨入り以降の日照不足、7月後半の猛暑により、肥大が鈍化傾向で推移し、最終調査時における横径はつがるが9.2cm（平年比105%）、ジョナゴールドが9.8cm（同104%）、ふじが9.2cm（同103%）であった。

5 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、早生・中生・晩生種とも平年より3日程度早かった。

収穫始めはつがるが9月7日頃、トキが9月27日頃、早生ふじが9月28日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月10日頃、無袋果で10月12日頃、ふじが有袋果で10月27日頃、無袋果で11月1日頃であった。

6 果実品質

つがるは、平年に比べて糖度がやや高く、でんぷんの抜け及び着色指数がやや低く、硬度及び酸度が低かった。

ジョナゴールドは、酸度がやや高く、着色指数が平年と同程度、硬度、糖度及びでんぷんの抜けが低かった。

ふじの有袋果は、着色指数が同程度、でんぷんの抜けがやや低く、硬度、糖度及び酸度が低かった。無袋果は、着色指数がやや高く、蜜果率が同程度、蜜程度がやや低く、硬度、糖度、酸度及びデンプンの抜けが低かった。

7 主要病害虫の発生状況

病害の初発日は斑点落葉病では平年より遅かったが、その他では平年並みから早かった。

黒星病が津軽地域では多く、県南地域では一部園地でやや多かった。発生は5月中旬から見られ始め、6月上旬以降増加したが、7月中旬時点の県全体におけるふじの被害果率は生産者の努力により0.4%と、摘果でおおむね除去された。発生要因は、越冬菌密度が高かったことと、5月中旬の降雨によって感染が拡大したものと考えられた。

斑点落葉病が県南地域の一部でやや多く、褐斑病が県南地域で散見され、うどんこ病が一部地域でやや多く、その他の病害は少なかった。

害虫の発生時期は、平年並みから早かった。ナミハダニが一部園地でやや多く、その他の虫害は少なかった。

8 生理障害等

ふじのつる割れは、例年よりやや多かった。

ジョナゴールドや王林などでビターピットの発生が目立った。

9 気象災害

7月下旬の高温の影響でつがるなどに日焼けが見られた。

9月4～5日の台風21号により、津軽地域を中心に落果や樹上損傷が見られた。

10 まとめ

本年は、春からの多雨と日照不足に加え、6月中旬の低温、梅雨明け後の猛暑、8月の低温など、気温の変動が大きい年であった。結実状況は、開花期間中の低温や強風、マメコバチ数の不足等により、地域や園地によってはカラマツ（不受精花）が見られたが、各品種とも概ね標準着果量を確保できた。果実肥大は、初期生育は良好であったが、6月中旬の低温や梅雨入り以降の日照不足、7月後半の猛暑により肥大が鈍化傾向で推移したものの、平年並みから平年をやや上回った。果実品質は、概ね良好に仕上がった。病虫害では、黒星病が多かった。

次年産の対策として、黒星病に対しては、越冬被害落葉処理や生育期の被害果・被害葉の摘み取り処分の徹底に加え、農薬の適期適量散布を指導する。また、マメコバチの適切な飼養管理等による結実確保対策や、品質向上と隔年結果防止に向けた早期適正着果の徹底を指導する。

※平成31年りんご生産情報第1号は、平成31年4月上旬頃発表の予定。

| |
|---------------------|
| 連絡先：りんご果樹課生産振興グループ |
| 電話番号：017-722-1111代表 |
| 内線5092、5093 |
| 017-734-9492直通 |